

配合変化チェックDB

大分類

医療機関システム

調剤薬局システム

中分類

処方監査・
処方確認支援

概要

注射薬配合試験情報*をデータ化することで、臨床現場での利用に即した注射薬配合変化チェックを可能とするデータベース

特徴

外観、pH、残存率の
変化を独自の基準で
“変化レベル”として登録

“変化レベル”を用いた
配合変化チェックが可能

2剤間における
配合変化が対象
(3剤以上の配合は
データ対象外)

* 製薬会社が公表しているインタビューフォーム等の配合変化資料

配合変化チェックDB

ご利用場面

病棟・外来・医薬品情報室で

- 注射薬調整時の配合変化情報の参照に

処方監査システムで

- 注射処方箋のチェックに

配合変化チェックDB

データ構成

医薬品	YJコード YJコード
変化レベル 変化コメント	外観変化 pH変化 残存率変化
チェックレベル	配合可否総合判定
その他	試験方法 配合方法 参考文献 備考

- 外観/pH/残存率変化
 - 弊社独自基準による4段階のレベル設定
 - 経時的な変化の内容をコメント保持
- 配合可否総合判定*
 - 配合変化資料の記載内容に基づき、配合不可、配合注意、配合可、記載なしの4段階にレベル設定
 - 記載なしの場合、“変化レベル”を使用してチェックレベルを設定することも可能

* 本データベースは配合変化資料から収集された情報に基づき作成されたものであり、配合条件、保存(使用)条件によって配合変化結果が異なると予測されます。配合試験結果の情報をもとにチェックを行うものであり、配合を保証するものではありません。

配合変化チェックDB

チェック例

薬品名
エリル点滴静注液30mg
ビタシミン注射液100mg

チェック結果の表示例



(A) エリル点滴静注液30mg
(B) ビタシミン注射液100mg
総合判定: 製薬会社配合可否判定→配合不可
【外観変化: あり】配合直後より変色
試験方法: 観察項目は外観、pH、塩酸ファス
ジルの含量。観察時期は配合直後、
30分後、2時間後、6時間後、24
時間後。保存条件は室温、散光下。
配合方法: エリル注1アンプルと配合薬剤
1アンプル又は1バイアルを配合
した。
参考文献: 医薬品インタビューフォーム

- 試験方法、配合方法、参考文献の情報の参照
- 配合変化資料の配合可否評価に基づくチェック結果を表示